

関連イベント

TALK

アーティスト&アドバイザー・トーク

I

10月8日[土] 14:00~16:30(開場13:30)
出演 全出品作家・藤浩志(本展アドバイザー)

II

10月30日[日] 15:30~17:00(開場15:00)
出演 ドットアーキテクト(出品作家)
木ノ下智恵子(本展アドバイザー)

I・IIともに 1階講堂にて 先着150人 無料
内容 出品作家と本展アドバイザーが、自身の創作や今回の展示などについて、トーク、ディスカッションします。

PERFORMANCE

ダンス公演『よそごとでない地 Too Close to Home』

10月8日[土] 18:30~19:00
2階展示室の流麻二果スペースにて 観覧券が必要
振付・出演 遠田誠 鈴木美奈子
構成・演出 遠田誠
企画構成・舞台美術・衣装 流麻二果
企画協力 住吉智恵 (TRAUMARIS)

ダンサー プロフィール

遠田誠 Makoto Enda
ダンサー / 振付家。日常のはざ間にダンスその他諸々を割り込ませる「まことクラヴ」を主宰。劇場はもとより美術館、博物館といったアートスペースから商店街、市役所、電車内、空港に至るまで出だし、サイトスペシフィックな活動を展開する。第1回日本ダンスフォーラム賞、他を受賞。高松市美術館で踊るのは1997年以来。



撮影: 427FOTO

鈴木美奈子 Minako Suzuki
日本大学芸術学部卒。フリーのダンサーとして数々の演出家の作品に出演。見る者に鮮烈な印象を残すダンスに定評があり、これまでに小野寺修二、笠井勲、白井剛、森下真樹、康本雅子、インバル・ピント&アブシャロム・ボラック、ASA-CHANG&巡礼、東芽らの演出作品や、MV・映画等への出演など、幅広く活動する。



撮影: 427FOTO

CONCERT

「瀬戸内国際芸術祭2016」香川大学提案プロジェクト事業 フルートとギターのデュオ・コンサート 「海の思い出」

10月15日[土] 17:00~18:00

1階エントランスホールにて 無料 演奏者 青山夕夏(フルート奏者、香川大学教授)、上垣内寿光(クラシックギター奏者) プログラム 武満徹「海へ」「巡りーイサム・ノグチの追憶にー」、A.ピアソラ「タンゴの歴史」ほか

WORKSHOP

伊藤隆介ワークショップ 「手描きのアニメを作ろう!」

10月8日[土] 10:30~12:30
3階講座室にて 小学生~大人 先着15人 (9月15日8:30~電話申込) 受講料500円
内容 16mmフィルムに絵を描いて、アニメを作って上映します。

WORKSHOP

谷澤紗和子 子どものアトリエ 「光のどうぶつ」

10月9日[日] 10:00~11:30
1階講堂にて 5歳児~大人(未就学児は保護者同伴) 先着30人(9月15日8:30~電話申込) 受講料500円
内容 切り紙を作って、懐中電灯で鑑賞を楽しみます。



WORKSHOP

来田広大 公開制作+ワークショップ 「鳥の目になって地図を描く」

10月9日[日] 11:00~15:00
1階エントランスホールにて 13:00より参加自由
内容 上空から見た高松の地図を元に、大きな黒板シートにチョークで地図を描きます。



撮影: Shoko Hara

WORKSHOP

ドットアーキテクト ワークショップ 「EXPLORING THE CITY」

10月30日[日] 13:00~15:00
3階講座室にて 小学生~大人 先着15人(10月1日8:30~電話申込) 受講料500円
内容 美術館を出発し、まち歩きをしながら、まちを観察・探検します。

TALK

ギャラリートーク(展示解説)

学芸員 10月15日[土] 14:00
ボランティア 会期中の日曜日・祝日 11:00、14:00
いずれも2階展示室にて 観覧券が必要

WORKSHOP

アートで遊ぼう! (子ども鑑賞プログラム)

10月22日[土] アニュアル展、11月26日[土] ダリ版画展、12月24日[土] 4期常設展
9:30~11:00 3階講座室にて 小学3~6年生 先着15人(10月1日8:30~電話申込) 無料 単発参加も可

TALK

友の会スペシャル・イベント

10月30日[日] 11:00~12:00
講師 木ノ下智恵子(本展アドバイザー)
1階講堂にて 先着50人(10月1日8:30~電話申込) 無料
内容 「文化・芸術・知の創造と交流の場」を目指すアートエリアB1(なにわ橋駅構内)で、多彩な事業を仕掛ける木ノ下氏がアートの魅力を語ります。

館長講座「まぶさび教室~現代における美への問いかけ」
講師 藤原資明(高松市美術館館長) 11月5日[土]、12月3日[土]、1月7日[土]、2月4日[土]、3月4日[土] 全5回(単発受講可) 11:00~12:00 40人(高校生以上) 1階講堂 無料
特別展「奇オ・ダリ版画展」(仮称) 11月12日[土]~12月18日[日]
瀬戸内国際芸術祭2016秋会期 10月8日[土]~11月6日[日] (お問合せ) 高松港総合インフォメーションセンター TEL:087-813-2244
高松市美術館・高松市塩江美術館共通年間パスポート 3,000円(65歳以上1,500円) 発行日から1年間、両館主催の特別展・常設展を何度でもご覧いただけます。
高松市美術館サポートショップ 美術館周辺のサポートショップへ特別展の半券を持って行くと、お得な特典が受けられます。 特別展会期中のみ



(交通のご案内) JR四国 JR高松駅下車、南へ徒歩15分 こと でん 瓦町駅、片原町駅下車、徒歩10分 バス路線 (ショッピング・レインボ-循環バス) 紺屋町バス停下車、徒歩約2分 (まちバス) 丸亀町参道下車、徒歩約3分 (高速バス) 県庁通り下車、徒歩約8分 駐車場 美術館地下に公営駐車場(有料、乗用車144台収容)



流麻二果《よそごとでない地 Too Close to Home》2015 撮影:加藤健 ダンサー:入手杏奈



ドットアーキテクト《Umaki camp》2013 撮影: Yoshiro Masuda

Manika Nagare dot architects Sawako Tanizawa Ryusuke Ito Kodai Kita
流麻二果 ドットアーキテクト 谷澤紗和子 伊藤隆介 来田広大

Takamatsu Contemporary Art Annual vol.05

Visible / Invisible Sceneries

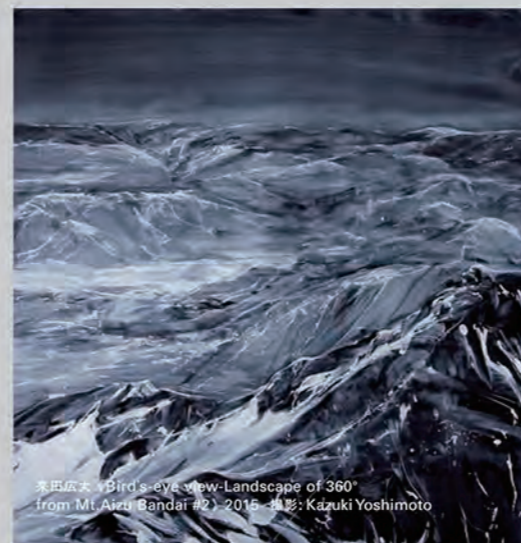


谷澤紗和子《おやまさま》2015 撮影: 柿崎真子



伊藤隆介《映画の発見》2006-2016 ©Ryusuke Ito Courtesy of Kodama Gallery

景風のふら



来田広大《Bird's-eye view-Landscape of 360° from Mt. Arzu Bandai #2》2015 撮影: Kazuki Yoshimoto

瀬戸内国際芸術祭2016連携事業 高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.05

2016年10月8日[土]—11月6日[日] 会期中無休

開館時間 9:30~19:00(但し日曜日は17:00閉館) 入室は閉館30分前まで 開展式 10月8日[土]9:30より
入場料 一般800円[640円] 大学生500円[400円] 高校生以下無料
【 】内は前売及び20名以上の団体料金 「瀬戸内国際芸術祭2016」会期中、パスポートをお持ちの方も【 】内の料金でご覧いただけます。 前売チケットは、高松市美術館1階受付、高松市役所生協、ゆめタウン高松サービスカウンター、宮脇書店本店及び南本店にて10月7日[金]まで販売 身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は無料

主催 高松市美術館 後援 朝日新聞高松総局 RSK山陽放送 RNC西日本放送 NHK高松放送局 OHK岡山放送 KSB瀬戸内海放送 産経新聞社高松支局 山陽新聞社 四国新聞社 TSCテレビせとうち 毎日新聞高松支局 読売新聞高松総局 助成 公益財団法人朝日新聞文化財団 公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団 協力 一時画伯 片岡慎策(構造物) 株式会社フジサワ・コーポレーション 黒飛忠紀(幸せ工務店) 児玉画廊 ユカ・ツルノ・ギャラリー

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 TEL:087-823-1711 FAX:087-851-7250

見えてくる風景

高松市美術館 TAKAMATSU ART MUSEUM

見えてる風景

瀬戸内国際芸術祭2016連携事業

高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.05

見えてる風景 / 見えない風景

年に一度の現代アートのグループ展「高松コンテンポラリーアート・アニュアル」。6回目の開催となる今回のテーマは「見えてる風景 / 見えない風景」です。

出品アーティストは、流麻二果、谷澤紗和子、伊藤隆介、来田広大の4人とドットアーキテクトスの1組です。流麻二果(1975~)の、一見抽象に見える画面は、彼女の関心の先にある人の気配や移ろいゆく自然への思いが瑞々しい色彩をまとい空間の中で響きあっています。また、高松市美術館にとって初の建築家グループの紹介となるドットアーキテクトス(2004年共同設立)は、今回シンプルな素材がせめぎ合うことで自立する構造体により、展示空間に漂流の情景を立ちあげることでしょう。谷澤紗和子(1982~)は、光源を伴う切り紙のインスタレーションにより、「妄想力の依り代」としての空間を作り上げ、風景の向こう側にある見えない世界と交感する窓を開いてくれるでしょう。実験映画で知られる伊藤隆介(1963~)は、自作のミニチュア・セットと、それをCCD小型カメラで撮影したライブ映像を同時に展示する方法で、見る者の記憶や現実感を静かに且つユーモアを持って揺さぶるものです。来田広大(1985~)は、山をフィールドワークの拠点とし、視界が開けたところにある俯瞰的な風景を、儂い素材であるチョークで描くことで、場所と人との記憶のあいをつないで見せます。

車窓から見える風景はひとつとして同じものではなく、敷かれた線路の後方、また視線の向こう側には、見ることが叶わない風景が無限に続いています。見えている「現実」の風景と共に、そうした見えない風景や、見えないことにしている風景が、誰にとっても確かに存在しているのではないのでしょうか。アーティストたちがどのように外界との関係を捉え表現し、紡ぎなおそうとしているものか。4人と1組のアーティストたちが織り成す「見えてる風景 / 見えない風景」の中に入り込み、新たな風景との出会いをお楽しみください。

1. 流麻二果《よそごとでない地 Too Close to Home》2015 撮影:加藤健
2. ドットアーキテクトス《京都島 / 流体都市》2015 撮影:表恒匡
3. 谷澤紗和子《無名》2014 撮影:賀集東悟
4. 伊藤隆介《そんなことは無かった》(「Realistic Virtuality (現実的な仮想性)」シリーズ) 2012 ©Ryusuke Ito Courtesy of Kodama Gallery
5. 来田広大《Line of Mt. Aizu Bandai The East side》2015 撮影:Kazuki Yoshimoto

◎特別展示: 谷澤紗和子×藤野可織《無名》
谷澤の陶オブジェと藤野可織(小説家、第149回芥川賞受賞)の短編小説をコラボレーション展示します。



出品作家プロフィール

流麻二果 Manika Nagare

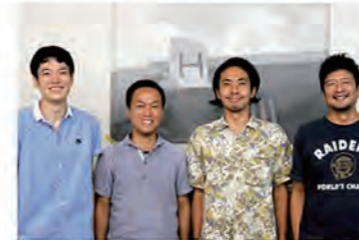
1975年生まれ、香川県育ち。女子美術大学絵画科卒業。2002年文化庁新進芸術家在外研修員、2004年ポーラ美術振興財団在外研修員としてNYを中心に、トルコ等国内外で発表。主な展覧会には、「VOCA展」(上野の森美術館、2000、2006)、「Love(?) Letter」(アサヒビル大山崎山荘美術館 / 京都、2007)、「No Man's Land」(旧フランス大使館 / 東京、2009)、「DOMANI・明日展2010」(国立新美術館)、「アートがあればII」(東京オペラシティアートギャラリー、2013)、「絵画を抱きしめて」(資生堂ギャラリー / 東京、2015)等。他ジャンルの人たちとのコラボレーション制作やワークショップを行うほか、港区立麻布図書館等パブリックアートも手がける。アートに触れる事の少ない子どもたちにアートを届ける非営利団体「一時画伯」発起人。
www.manikanagare.com



撮影:加藤健

ドットアーキテクトス dot architects

家成俊勝(1974年兵庫県生まれ)、赤代武志(1974年兵庫県生まれ)により2004年共同設立された建築事務所。大阪・北加賀屋を拠点に活動。現在のメンバーは、家成、赤代に加えて、土井亘(1987年神奈川県生まれ)、寺田英史(1990年埼玉県生まれ)の4名。建築設計に留まらず、他分野の人々と協働しながら様々な企画にかかわる。設計・施工のプロセスにおいて専門家・非専門家に関わらず、様々な人々を巻き込む「超並列設計プロセス」を実践。障がい者と共に建築を建てる「Inclusive Architecture」、小豆島の人たちと協働してつくった「Umaki camp」などの建築設計に加えて、リサーチプロジェクト、現場施工、アートプロジェクトなども行う。「3.11以後の建築」(金沢21世紀美術館、2014)、「知らない都市—INSIDE OUT」(京都精華大学ギャラリーフロール、2015)、「第15回ヴェネチア・ビエンナーレ 国際建築展」(2016)など活躍の場を広げている。
www.dotarchitects.jp



谷澤紗和子 Sawako Tanizawa

1982年大阪府生まれ。2005年Royal College of Art 交換留学。2007年京都市立芸術大学大学院修了。妄想力の開放をテーマに、土地や物語の取材を元にした切り紙と、光と影を用いたインスタレーションや、貝を使った陶人形作品を発表。美術館やギャラリーでの作品展示に加え、祭の会場装飾、小説家やミュージシャンとのコラボレーションなども積極的に展開している。主な展覧会に「ミンハメグリ」(大阪府立中之島図書館、2012)、「六甲ミーツ・アート芸術散歩」(六甲山高山植物園、2014)、「化け物展」(青森県立美術館、2015)、「亡霊—捉えられない何か」(瑞雲庵 / 京都、2016)などがある。「無名」(kunstarzt / 京都、2015)では、小説家・藤野可織とのコラボレーション作品を発表。
www.tanizawasawako.com



撮影:賀集東悟

伊藤隆介 Ryusuke Ito



1963年札幌市生まれ。1988年東京造形大学デザイン学科卒業。1992年シカゴ美術館付属大学大学院研究科修士課程修了(MFA)。東京造形大学で映像作家・かわなかのぶひろに師事し、実験映画の制作を始める。イメージフォーラム・フェスティバルで受賞、国内外で上映。80年代より、村雨ケンジ名義で視覚メディアを縦横に切る批評を行う。美術家としては映像インスタレーション「Realistic Virtuality (現実的な仮想性)」で高い評価を得て、シリーズを発表。主な個展には「伊藤隆介ワンマンショー; All Things Considered」(札幌宮の森美術館、2014)、「天神洋画劇場 伊藤隆介の「フィルム・スタディーズ」」(三菱地所アルティウム / 福岡、2016)、グループ展には「TODAY IS THE DAY: 未来への提案」(アートギャラリーミヤウチ / 広島、2015)、「ラボ映画の冒険」(国立国際美術館 / 大阪、2016)など。
www.ne.jp/asahi/r/ito

来田広大 Kodai Kita



撮影: Hyogo Mugyuda

1985年兵庫県生まれ。2010年東京藝術大学大学院油画技法材料修了後、各地でのフィールドワークをもとに、チョークを用いたインスタレーションや絵画を制作・発表。主な個展に「流れ山 flowing mountain」(Gallery PARC / 京都、2013、2015)、「FUGAKU HYAKKEI」(ギャラリー昨明 / いわき、2014)。グループ展には「Art Point Iwaki 玄天gengenten」(いわき、2014)、「93.「未来の途中」の先を夢見る。」(ARTZONE / 京都、2015)、「視点の先、視線の場所」(京都造形芸術大学 Galerie Aube、2015)、「これからの、未来の途中」(京都工芸繊維大学美術工芸資料館、2015)、「focal length」(SUNDAY / 東京、2016)などがある。「赤倉アカデミーインレジデンス2009」(赤倉温泉 / 新潟)ほか、現在平成28年度ポーラ美術振興財団在外研修員としてメキシコシティに滞在。
www.kodakita.com

制作家プロフィール



藤浩志 Hiroshi Fuji
1960年生まれ。秋田公立美術大学美術学部美術学科教授、前十和田市現代美術館館長。京都市立芸術大学大学院美術研究科修了後、パプアニューギニア国立芸術学校講師や建築企画・都市計画コンサルタント勤務を経る。瀬戸内国際芸術祭2010では「藤島八十郎をつくる」(豊島)で出品、2015年には霧島アートの森(鹿児島)で個展開催など展覧会も多数。



木ノ下智恵子 Chieko Kinoshita
アートプロデューサー。1994年神戸芸術工科大学大学院修了。専門は、現代芸術に関する企画制作(プロデュース / アートマネジメント)、文化政策等。神戸アートビレッジセンター美術プロデューサーを経て、前職は大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任准教授。現在はアートエリアB1(なにわ橋駅 / 大阪)で「鉄道芸術祭」はじめて多岐に渡る展覧会等の企画、及びNAMURA ART MEETING 実行委員として様々な芸術実験を試みる。